

障害があってもなくても一緒に育てる越谷に

障害を持ったお子さんを育てているお母さんが中心でつくる「インクルーシブ教育を考える会」。これまで、毎月の定例会や市との懇談を重ねてきました。

また、不登校も特別支援学級もない同じ教室で一緒に学ぶふつうの公立小学校を描いた「みんな

の学校」の無料上映会を企画しています。ぜひ、お申込みください！

「インクルーシブ教育を考える会」では、一緒に活動してくれる方を募集しています。参加希望の方は、お気軽にお問い合わせください。

インクルーシブ教育って何??
障害のある人とない人が共に学ぶ仕組みのこと。

《ママの声》公園緑地課との懇談を終えて

「インクルーシブ公園が越谷にできたらいいな」という私の呟きから、100名以上の方にアンケートにご協力いただき、公園緑地課さんに要望書を持っていました。そして先日進捗状況をお聞きたところ、要望書でお願いした点が計画に反映されていました！私達の声が届いたことに感動しました！

オール(スペシャルキッズ親の会)
インクルーシブ教育を考える会
代表 福田直実さん



みんなの学校上映会

日時: 10月8日(日)
13:30~上映(13:00 開場)
場所: 文教大学越谷キャンパス
14号館LECRO内14101
(越谷市南荻島3337)



申し込みフォーム

アンケートにご協力ください

今回のレポートでどの項目に関心を持ちましたか。
○をつけてください

- ・ 全国で広がるオーガニック給食
- ・ 市議会報告
- ・ 大袋小プール解体
- ・ 市民に寄り添ったおみやみコーナーの充実を
- ・ けんけん GOGO 県議会
- ・ ネットの視点
- ・ 障害があってもなくても一緒に育てる越谷に

その理由をお聞かせください。

県政・市政についての要望や気になっていることをご自由にお書きください

緊急学習会 / 何が問題!? マイナ保険証 9.5(火) 14:00-16:00 (開場 13:30) 会場 越谷市中央市民会館 第2・3会議室(定員80名) ※資料代 300円

お申込み方法
下記のメールアドレスまたはQRコードよりお申込みください。
メール: koshigaya.net@gmail.com

講師 原田富弘さん (共通番号いらないネット)
1953年東京都生まれ、郡内自治体職員勤務経験から、住基ネットやマイナンバーの危険性を指摘。「共通番号の危険な使われ方」「マイナンバーは監視の番号」など著書多数。

お問い合わせ

No.125 生き活き 越谷市民ネットワーク レポート



全国で広がるオーガニック給食

学校給食に有機食材を使用しているのは全国で123市区町村にもなりました。みなさんは「オーガニック」にどのようなイメージがありますか？

学校給食は、子どもたちの体を育むだけでなく、食や環境について学ぶ「生きた教材」という面があります。

例えば、化学肥料や農薬はその原料を輸入に頼っており、価格高騰の原因になっています。それらに頼らない循環型農業を可能にするには、微生物がたくさん生きられる肥沃な土壌など、生物多様性あふれる持続可能な環境が必要です。

オーガニック給食の実現という食材だけに目が行きがちですが、その背景にある経済や地球環境にまで子どもたちが考えるきっかけになるのではないのでしょうか。

こしがや 子どもの食を考える会

昨年の4月、給食について関心のある人たちで「こしがや 子どもの食を考える会」を結成しました。

"今の給食に感謝しながら、安心安全な食材を取り入れたい"という想いで活動しています。

ドキュメンタリー映画「いただきます」の上映会をしたり、給食課の方と面談をし今の給食の現状を教えてもらいました。

只今、「オーガニック給食を求める声を伝えよう」という署名の活動をしています。

今後は、環境に配慮され生きものにもやさしい稲作をしている「越谷 ふるさと米」の田んぼの見学をさせていただきます。

声を上げると共に大事なこと

お米の価格下落、肥料の高騰、気候変動、そして農家さんの高齢化。有機農業にチャレンジするということはリスクや負担がたくさんあります。どうしたら農家さんが安心して持続可能な農業に取り組めるかは、私たちが農家さんを支援する力が必要不可欠です。

作る環境に安心があれば、化学肥料や農薬を使用する慣行栽培から有機栽培への転換も希望があると感じます。

オーガニック食材や国産小麦を学校給食に取り入れるという事は、もちろん難しさもありますが、安定した受け皿ができるという事だとも思います。子どもたちの健康が守られるだけでなく、環境を守り、農業を守り、地域が元気になる事にきっと繋がります。

※この記事ではオーガニック給食という言葉や、有機認証を受けた食材だけを給食で提供するという意味ではなく、持続可能で地産地消できる安心安全な給食という意味で使っています。

オーガニック給食を求める声を伝えよう

ぜひ署名のご協力を
よろしくお願ひします。



こしがや子どもの食を考える会
Instagramアカウント

越谷市議会6月議会報告 初のネット単国会派結成

新しい任期がスタートし、ネットの代理人である山田ゆう子・清水泉・大田ちひろは初の単国会派「越谷市民ネットワーク」を結成し、市議会においても3人体制となりました。

単国会派の結成により、これまで以上にネットらしさを発揮して、市民に開かれた議会を作っていきたいと思えます。

これまで立憲市民ネットとして統一会派を組んできた立憲民主党の議員とは、福田市政を支える仲間として、引き続き連携していきます。

引き続き生活者目線で私たちらしく活動していきますので、どうぞよろしくお願いいたします。



左から大田ちひろ 清水泉 山田ゆう子

大袋小プール解体 来年度の水泳授業は民間委託

大袋小のプール解体議案が賛成多数で可決されました。大袋小のプールは本年度、解体・新設される計画ですが、新設はいったん見合わせ、来年度は水泳授業を民間委託することになりました。

民間プールの活用は、バス移動に時間がかかること、教員の指導力の維持、管理責任の所在などの課題が



あります。また、市内南部と北部とのプールの在り方に不公平感を感じるという声もあります。

一方で、民間プールは屋内温水プールのため天候に左右されず年間を通じて計画的に水泳授業ができること、新たなプール建設費と維持費の削減のメリットがあること、そして、あくまでも今回はモデル事業だということを確認し、越谷市民ネットワークとしては賛成しました。

市民に寄り添った「おくやみコーナー」の充実を

おくやみコーナーとは、家族等が亡くなった際に遺族が行う諸手続きに関する相談窓口です。

越谷市ではなんでも相談窓口の中に設置しており、おくやみハンドブックに沿って必要な手続きを遺族へご紹介しています。遺族は自ら複数の窓口へ行き手続きをしなくてはなりません。

一方他市では、遺族窓口があり多くの手続きを一つの窓口で終わらせることができます。

6月議会の一般質問では、清水泉がおくやみ窓口のワンストップサービス化について取り上げ、市長からは「遺族の負担軽減を図るための有効な取り組みとして理解しているが、受付方法や窓口体制などを再検討する必要がある」との答弁がありました。



埼玉県議会議員 辻こうじの

けんけんGoGo 県議会

改選で第2会派に

4月の改選を経て、辻は2期目をスタート。所属会派「埼玉民主フォーラム」は仲間が増えて、自民党県議団に次ぐ第2会派に。しかし、自民党が圧倒的に多い構図は変わらず。全国で2番目に1人区の選挙区が多いことによる埼玉県議会の特徴です。4年前の知事選では対立候補を支援した自民・公明会派ですが、今回は大野知事を支持。県政が安定することはよいことですが、4年前に必死に大野知事を応援した立場としてはやや複雑な思いもします。

埼玉県議会会派構成 定数93名(2023年7月1日時点)
自民58名・民主フォーラム12名・公明9名・県民会議7名
共産党3名・改革1名・維新1名(※)・無所属2名
※維新の議員は居住実態をめぐり係争中。

県営プールでの水着撮影イベントをめぐって

県営「しらこぼと」「川越」の両水上公園を水着撮影イベントに貸し出してきたことについて、過激なポーズや未成年モデルの参加などが問題となり、公園を指定管理する公園緑地協会が「貸し出し基準に反する」と判断し貸し出し取り消しを決定。これに対して「表現の自由を奪う」などの批判がSNS等で集中する「炎上」状態に。県議会への脅迫もあり警察が警備にあたる事態に発展。県土都市整備委員会ではこれらの問題を受けて、公園緑地協会理事長を参考人招致しての所管事務調査も行われました。

法的に認められているとはいえ、公共施設を使っでの過激な撮影会をも「表現の自由」「経済活動の自由」の範疇として無制限に許可していいのか。また、そもそも施設使用上の明確なルールが十分整備されていなかった行政責任など、考えなければならないと思います。

ネットの視点

女性議員が増えると 議会はどう変わる?

4月に行われた統一地方選では女性当選者が過去最多となり、全国の市議会における女性議員比率は22%と過去最高を更新するなど、女性の躍進がみられました。

越谷においても女性議員比率は31.3% (32人中10人)と改選前と変わらないものの、新人の女性が複数当選したことにより、議会の空気が変わったように感じます。



6月議会では期数を問わず女性議員が活発に質疑をする様子が見られ、これが本来の議会のあり方だと感心しました。

また、子育て世代の女性議員が増えることで、出産・育児と議会活動を両立するための環境整備にも取り組みやすくなります。

女性が30%を超えると、女性の視点を生かした意見や政策が実現しやすくなるのがわかっています。

女性の声や生活者の声をもっと市政に届くように、超党派で女性議員どうしの連携を深めていきたいと思っています。(中町在住Y)

お手数ですが
切手をお貼り
ください

343-0023

越谷市東越谷1-5-17-1F

越谷市民ネットワーク行

差し支えなければ連絡先をご記入ください

住所

氏名

電話番号

※今後レポートなどお知らせを郵送させていただく場合がございます。